令和８年度　埼玉親善大使クイーンズランド州留学レポート

岡本 梨愛



１．はじめに

この度、埼玉県スカラシッププログラムを通して、オーストラリアのクイーンズランド州に派遣させていただきました岡本梨愛です。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。私がこの留学プログラムに応募した理由はオーストラリアで行われているインクルーシブ教育（障害の有無や国籍に関わらず、すべての子どもが同じ教室で学び、生活する教育方法）を、実際に自分の目で見てみたかったからです。新たな価値観に触れることで、日本では得られない新たな気づきを得たいと思い、応募しました。

オーストラリアには約２週間滞在し、現地のイェロンガ高校に通うことができました。また、ホストファミリーをはじめ、色々な人々との素敵な出会いもあり、素晴らしい貴重な経験を得ることができました。
このレポートでは、現地での経験や学び、学校生活、埼玉親善大使としての活動について報告したいと思います。

２．学校生活

日本の学校と同じく、平日は学校に通います。学校は９時頃からはじまり、１５時頃に終わり、その間に２回ほど長い休み時間があります。１コマは約７０分で、それが４コマありました。２コマ目が終わると、みんなでタックショップ（学食）に行き、ランチを買いに行きました。イェロンガ高校の学食は予約もできるので、とても便利でした。
休み時間はオーストラリアで人気のあるスポーツのクリケットを生徒たちと一緒に行ったり、体育館に行ってバレーボールを男女で仲良く行ったりしました。学校では毎日現地の生徒（バディー）と行動をして、授業に参加しました。バディーは 9～11 歳の子供達で１週間ごとに交代して

いく形式でした。それぞれのバディーにより取得している科目が異なるため、バディーが変わる度に、様々な科目を英語で受けることができました。
日本とオースラリアでは、教室の考え方が違っていました。日本では、生徒は同じ教室で、先生が授業の科目ごとに移動しますが、オーストラリアでは先生が移動するのではなく、生徒が自分の科目をやっている教室に移動する形式でした。その点が日本と違っており、授業の教室移動がとても大変でした。日本のように自分の教室はありますが、基本的には朝のホームルームでしか集まりませんでした。
学校にはオーストラリア人の他、アメリカ人や中国人、マレーシア人など、様々な国籍の人がたくさんいたため、異文化交流をすることができました。一人ひとりの英語のイントネーションが違っているなど、様々な国の文化を少し知ることができました。多国籍の生徒たちと過ごすことで私が気付いたことは、多国籍だとみんなが「違って当たり前」ということです。「違って当たり前」だから、違う国から来た私たちにも色々な生徒たちが笑顔で積極的に話しかけてくれたり、手を振ってくれたりしてくれて、すぐにたくさんの友達を作ることができました。お互いの「違い」を認め合い、尊重しあう環境に触れることで、インクルーシブ教育の素晴らしさを知ることができました。



（学食：カツカレー）



（休み時間はみんなでクリケット！）



（笑顔で優しい多国籍の生徒たち）

３．授業の様子

オーストラリアの生徒たちは積極的に手を挙げ、自分の意見を発言していました。この様子を見て私は圧倒されました。一人ひとりが本当に輝いて見え、逞しく見えました。失敗を恐れずに手を挙げている彼らの姿をみて、今後学校でわからないことがあったら私も手を上げたいと思いました。

日本では授業中は静かな学校が多いと思いますが、オーストラリアは違いました。教室がとても賑やかで明るく、とても居心地の良い空間でした。また特に興味深かったのは先生の行動です。前回の復習をするときに、正解した生徒には先生がお菓子をくれるのです。復習時に限らず自分で自主的に手を挙げる場面では、先生がご褒美にお菓子を配っていました。

授業のスタイルも違っており、日本のように先生の説明がメインの講義式ではなく、生徒のディスカッションをメインに構成された授業でした。主体的に取り組んでいた生徒たちの姿が印象的でした。

４．埼玉県の PR

現地の日本語授業の時間に、半分ほど授業時間をいただき、埼玉の文化について説明する機会をいただきました。約２０人の生徒が集まってくれました。説明会では、まず埼玉県の場所や文化、歴史についてのクイズを行いました。その後、２つのグループに別れて、それぞれ書道と折り紙を行いました。書道は生徒がそれぞれ好きな文字を書くことにしたのですが、たまたま中国からの交換留学生が参加しており、彼の書道の腕前に、他の生徒たちは驚いていました。

私は折り紙を教える担当になり、生徒たちに「パックンチョ」と「鶴」の折り方を教えました。生徒の中にはすでに「パックンチョ」の折り方を知っている子もいたり、「手裏剣」を一人で作れる子もいて驚きました。最初は英語で折り紙の折り方を教えるのは難しいのかなと思っていましたが、そんなことは全くなく、「鶴」を一緒に楽しく折ることができました。また「鶴」を折りながら、お互いの趣味などを話すことができ、友達を増やす素敵な時間にもなりました。

埼玉県の親善大使としてオーストラリアに滞在していた 2 週間、現地の様子を毎日 instagram に投稿していました。「saitamaaus]というアカウントで投稿していたので、興味のある方は是非見てみてください。



（みんなで書道体験）

５．ホストファミリーとの生活

私のホストファミリーは、ホストファザー、マザーと 1 人のホストブラザーの 3 人家族でした。ホストマザーはヨガの先生をやっていたため、毎週日曜日の朝は公園の湖の前で一緒にヨガをやりました。料理もとても上手で、時々オーストラリアの伝統的な料理の MEAT PIE を作ってくれて、食べ方も教わりました。

ホストファザーは F1 やオーストラリアンフットボール（ラグビーのようなオーストラリアで人気のあるスポーツ）が好きな方でした。夕食時は、みんなで F1 やオーストラリアンフットボールを見るのですが、ホストファザーが分かりやすくルールの説明をしてくれるので、ルールを完璧に理解することができ、日本に帰ってきてからも見るようになってしまいました。

ホストブラザーは 12 歳の男の子でサッカーとゲームが大好きな男の子で、とても優しく接してくれて、分からないことがあったらすぐに助けてくれました。 私もサッカーをやっているので、毎朝 2 人で日本のサッカーアニメの「ブルーロック」を英語で見たり、放課後は家の庭でサッカーをしたりしてとても充実した生活でした。彼は常にサッカーボールを持っているので学校から歩いて帰る時もボールを蹴りながら帰っていました。ホストブラザーは疑問に思ったことがあったらすぐに両親に質問をしていたため、とても頭がよく、物知りでした。私もホストブラザーを見習って、疑問に思ったことは両親に聞くようになりました。

週末はオーストラリアで有名な「STEAK AND CHIPS」のレストランに連れて行ってもらったり、近くの小学校でファミリーテニスをしたり、「Wellington Point」という家から車で 40 分ほどの海に連れて行っていただいたり、色々な素敵な場所に連れて行っていただきました。

ホストファミリーは食事のときはいつもみんなでそろって食べており、ブラザーの学校で起きたことを話したり、テレビを見たりしながら楽しく過ごしていました。私が驚いたのは、みんなで同じテレビ番組を見ていた時、誰かがトイレやお風呂に入るときには必ずテレビを止めて、その人が戻ってくるまで待ってくれるのです。とても印象的な出来事でした。

ホストファミリーは本当に暖かい家庭で一生忘れられない貴重な経験をたくさん得ることができました。

ホストファミリーと過ごす最後の日、ホストファミリーがサプライズでたくさんのお土産を用意してくれました。あまりの嬉しさに思わず号泣してしまいました。私も２週間の滞在を受け入れていただいたお礼に、A4 一枚分ぎっしりと思いを込めた手紙を一人ひとりに渡しました。手紙をとても喜んでもらえたようで、私がいないところで、3 人で手紙を交換して読んでくれていました。

日本に帰ってきてからも、instagram を通じて連絡を取っており、滞在中に私が作ってあげた日

本料理の「そうめん」と「親子丼」を、すでに 2 回も作ってくれたと連絡があり、とても嬉しかったです。



（マザーの MEAT PIE ）



（ファミリーで F1 観戦）



（放課後はブラザーとサッカー）



（手紙を喜んでくれたホストファミリー）



（滞在中にそうめんを作りました）

６．終わりに

このプログラムを通して得たインクルーシブ教育からの学び、現地の授業の様子を見て気づいた日本との違いなどはこのプログラムだからこそ得られたものだと思います。これらの経験を自分の将来に必ず繋げ、埼玉県とオーストラリアの架け橋となれるような存在になりたいと考えています。

初めは少し不安なところもありましたが、とても暖かく向かい入れて下さった優しいイェロンガ高校の生徒たちやホストファミリーのお蔭で、貴重な経験をすることができ素敵な 2 週間にすることができました。

このような素敵な機会を設けて下さった関係者の皆様、一緒に過ごした親善大使の仲間達、現地の生徒の皆さん、ホストファミリーに改めて感謝致します。

本当にありがとうございました！！